

水産研究課美波庁舎の機能強化について

水産業を核とした地域の発展と迫り来る南海トラフ巨大地震への対応を図るため、平成27年度から実施してきた水産研究課美波庁舎の改築・改修工事が、平成29年2月末に完了する。

今後、「マリンサイエンスゾーン」の県南拠点として、研究開発や人材育成に取り組み、本県水産業の成長産業化を図る。

1 施設の概要

(1) 研究・防災棟（改築）

【構造】鉄骨造 3階建て

【延床面積】1,066㎡

- ・共同研究や漁業の6次産業化等を推進するため、サテライト研究室と6次産業化研究室を新設
- ・耐津波性能を持たせ、屋上に津波避難場所を整備

(2) 本館（耐震改修）

【構造】鉄筋コンクリート造 一部4階建て

【延床面積】1,526㎡



研究・防災棟

2 今後の取組み

(1) 試験研究

マリンサイエンスゾーンの構成機関である徳島大学・阿南工業高等専門学校等と連携し、「県南海域に適した高水温耐性ワカメ類養殖品種」、「アワビ種苗の増産技術」、「ドローンを活用した藻場分布調査技術」等を開発

(2) 人材育成

- サテライト研究室や6次産業化研究室を活用し、「インターンシップやフィールド研究による研究者等の育成」、「漁業者や企業による加工品開発の支援」を実施
- 「とくしま漁業アカデミー」の拠点として、実践力のある漁業人材を育成

(3) 防災・減災

被災後の漁業の早期再開を図るため、事前準備として「海底地形の現況データ収集」、「海藻養殖用種苗の保存」等を進めるとともに、発災後は「漁場の被災状況調査」、「海藻養殖用種苗の培養、漁業者への提供」等を実施

(4) 地域振興

地元美波町との協働により、地域・サテライトオフィス企業・大学・行政等が連携・交流する多目的利用室（コワーキングスペース）を本館に設置